

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立晴嵐小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

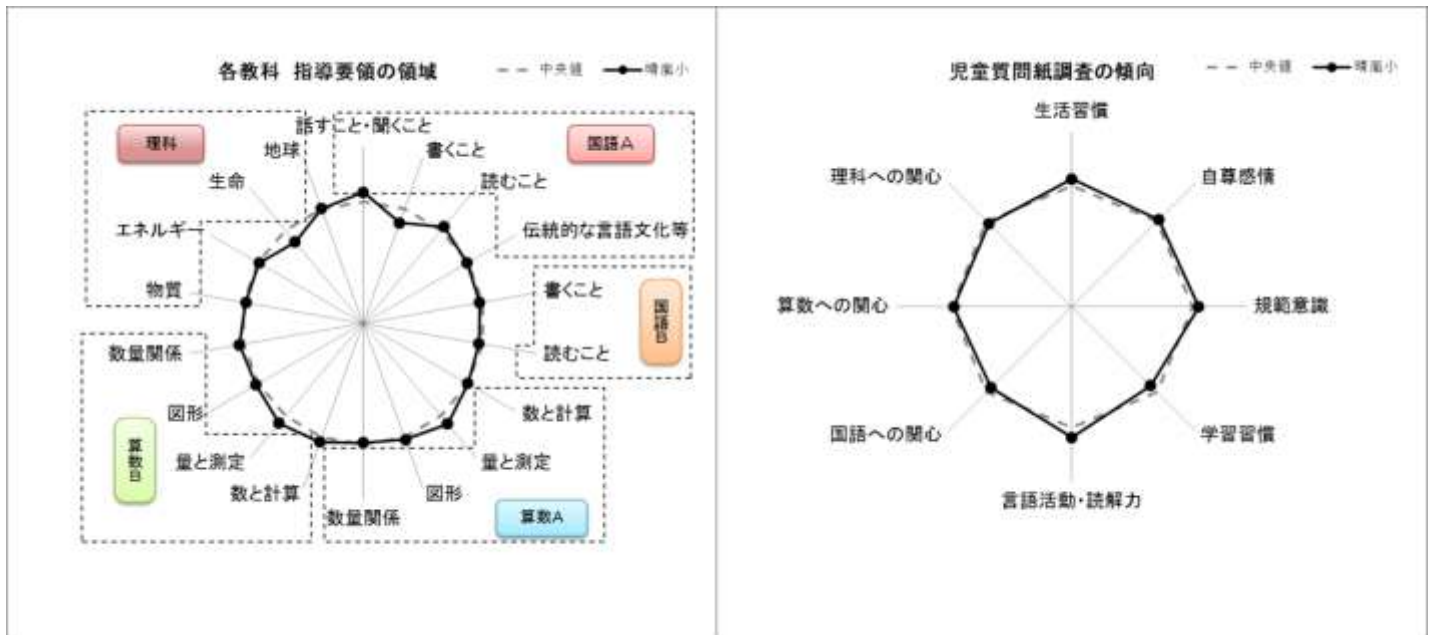
国語では、A問題、B問題ともに「書く」能力について、理科では、「生命」において課題が見られた。算数では、「量と測定」の領域において学習の成果が見られた。全体的に基礎学力が定着している傾向が見られ、各教科とも無回答率が低かった。

《強み・弱み》

本校の強みは、各教科とも基礎的な内容をしっかりと身につけている児童が多いことである。基礎的な生活習慣が身につけていることや規範意識が高く、宿題を忘れず取り組むなど学習習慣も身につけていることが強みにつながった要因のひとつと考える。弱みは、各教科とも「書く」ことに課題が見られ、記述式の設定の正答率が低いことである。（国語では、文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くこと。算数では、図形の性質や特徴を捉えて記述すること。理科では、観察や実験した結果から自分の考えを記述すること。）また、学習態度が受け身的で、家庭では宿題以外に予習や復習などを主体的に学習に向かう習慣が十分に身につけていないことが弱みとして考えられる。

◇強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



【指導の充実に向けて】

1. 子どもたちに規範意識および学習規律を確実に身につけさせる。
2. 全教職員共通理解のもと、本校が取り組む「学び合い」をさらに推進していく。（全ての子どもが基礎的な学習内容を理解し、全ての子どもが難しい課題に挑戦できる機会がつけられるよう、教材研究の充実を図り、指導力の向上をめざすこと。教師が一方的に話す時間を減らし、ペアやグループ活動を多く取り入れ、意欲的に学習に取り組む態度を育てること。子ども同士が「わからない」ことを聞き合うことで深い理解につなげること。子ども同士が支え合いながら学習することで安心して学習に取り組めること。）
3. 各教科における言語活動をさらに充実させる。とくに「書く」活動を学習時間の中に効果的に取り入れていく。
4. 「家庭学習の手引き」を配布し、保護者と連携しながら宿題以外に予習や復習にも意欲的に取り組む態度を育て、学力の向上につなげていく。